

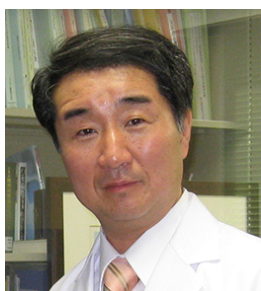
リバルエン[®]LAパッチ

発売1周年記念WEBセミナー

2026年 **10月30日(金)**
19:00 ~ 20:00

追っかけ再生あり ※21時までに視聴開始した方に限り、お好きな個所からご覧いただけます。

座長



中村 祐 先生

国立大学法人香川大学医学部
精神神経医学講座
教授

演者

医師と看護師で考える リバルエン[®]LAパッチが「続けられる」理由



石崎 賢一 先生

医療法人社団養生館 青葉病院
院長



氏井 江理子 先生

医療法人社団養生館 青葉病院
もの忘れ外来 担当看護師

演者

多様なニーズに対応する認知症診療



小林 良太 先生

藤田医科大学医学部
認知症・加齢脳科学科
教授

主催：東和薬品株式会社

■講演要旨■

医師と看護師で考える リバルエン®LAパッチが「続けられる」理由

石崎 賢一 先生（医療法人社団養生館 青葉病院 院長）

氏井 江理子 先生（医療法人社団養生館 青葉病院 もの忘れ外来 担当看護師）

私たちの考える認知症治療のモットーは続けられる治療の選択です。当院外来では医師、看護師、患者、ならびに家族・介護者による共同意思決定（SDM）による治療法の選択を最重点において治療をすすめています。血中濃度が安定し、視覚的に処方の継続が確認できる貼付剤治療を第一選択としています。そして、増え続ける独居高齢者には介護保険サービスの利用や家族の協力でなんとか継続できる治療法がないかと模索しているところに昨年週2回製剤の「リバルエン®LAパッチ」が登場し、治療の選択肢が増えました。本講演では当院での使用経験を交え、患者背景を考慮した認知症の治療戦略についてお話したいと思います。

多様なニーズに対応する認知症診療

小林 良太 先生（藤田医科大学医学部 認知症・加齢脳科学科 教授）

近年、抗アミロイドβ抗体薬の登場により、認知症の薬物療法はMCIから進行期までの全段階で大きなパラダイムシフトを迎えている。バイオマーカー診療の進歩に伴い、SNAPやLATE、DLBなど複雑な病態の鑑別や早期発見の重要性が高まる一方、抗アミロイドβ抗体薬の適応が限られる現場も依然として少なくない。

こうした臨床現場において、多様な患者・家族のニーズに応える確固たる治療選択肢として存在感を増しているのが、発売1周年を迎えた日本初の持続放出性アルツハイマー病治療薬「リバルエン®LAパッチ」である。本講演では、最新の診断・治療動向や軽度行動障害（MBI）の有用性を整理した上で、これからの認知症診療においてリバルエン®LAパッチが果たすべき重要な役割と、具体的な処方・活用戦略について実臨床の視点から多角的に解説する。

セミナー視聴登録

下記視聴予約URL 又は二次元コードより
事前お申込みの上、ご視聴ください。

<https://re.m3dc.live/towayakuhin20261030>

視聴登録いただいた先生方へ弊社MRが訪問させていただくことがあります。
ご提供いただきました個人情報は、ご視聴いただいた先生の確認のほか、
今後のセミナー・イベント、弊社製品に関するご案内のために使用します。
個人情報は、業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。
個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。



お問合せ先 東和薬品株式会社 営業本部 営業戦略統括部 営業企画部 営業推進課
eigyousuishin@towayakuhin.co.jp